

## -観光・歴史の電子書籍作成のためのオーラルを用いたデジタル・アーカイブの構成- ～上司氏による手向山八幡宮の関係資料を用いた説明～

加藤 真由美\*<sup>1</sup> 大木 佐智子\*<sup>2</sup> 谷 里佐\*<sup>3</sup> 三宅 茜巳\*<sup>4</sup> 佐藤 正明\*<sup>5</sup> 後藤 忠彦\*<sup>6</sup>

<概要>これまでの歴史・観光資料の書籍、とくに、教科書は、主として印刷メディアで構成されてきた。しかし、最近の電子教科書・書籍は印刷物の二次利用としてデジタル化が進められ、さらに、最初から電子書籍を目的とした、映像・印刷物・関連資料を用いたマルチメディアの構成についての研究開発が進もうとしている。そこで、今回、奈良時代からの背景をもとに、手向山八幡宮（奈良県）の上司氏による現物（現地）での説明と関連資料を用いたデジタル・アーカイブを構成し、今後の電子書籍の方向性について検討を行った。

<キーワード>電子書籍、制作環境、観光、歴史、教科書、映像、オーラル、デジタル・アーカイブ

### 1. はじめに

電子書籍は、印刷メディアの二次利用が進みだし、すでに世界的に多くの出版物がデジタル化され、利用しやすい装置の提供も始まりだした。我が国でも国会図書館等では、印刷メディアの二次利用として組織的なデジタル化が進もうとしている。

しかし、電子書籍としての情報の流通は、これまでの印刷メディアの二次利用が主であり、最初から電子書籍としての利用を目的とした作成例は少なく、まだ、電子書籍作成のための情報環境の整備が急がれる状況である。

電子書籍の作成の情報環境は、これまでの作者が出版物に囲まれて行っていた制作活動と同様に、出版物と併せて、多様な映像・音声・文字等の情報を持つデジタル・アーカイブが必要となってくるであろう。

とくに、電子書籍では、具体的な映像、説明、関連資料を調べることが必要となり、ときには、現地での撮影・調査などを利用することもあるだろう。

そこで、これまでの書籍では利用されていなかったオーラルとその関連資料について、どのようなデジタル・アーカイブの構成をすべきか検討を行った。

デジタル・アーカイブでは、オーラルヒストリー（例：木田宏教育資料のオーラルヒストリーなど）の研究は、すでに、多くの研究開発が行われてきたが、これらの研究は一つの完成されたデジタル・アーカイブであり、電子書籍等の作成のために利用するには、多様な関連資料で構成させる構造が必要となってくる。

このため、今回、奈良手向山八幡宮について、

同宮の上司氏に、歴史的背景や現状等について宮内で文化財を見ながら説明をしてもらい、アーカイブ化を進めた。そのデータをもとに全体構成と並行し、各分野の説明を中心に関連資料を整理し、観光、情報、教科書作成用のデジタル・アーカイブの構成について試行研究を行った。

### 2. 分野別のコンテンツの提供

一般的に、アーカイブでは完成された構成を考えるが、新しいテキスト等では各分野で独立性をもったコンテンツが必要である。

たとえば、長時間のオーラルデータ等は可能なかぎり、短い区分でまとめ、独立した教材としてコンテンツ化し、提供することが必要となってくる。現在、その教材開発と教材利用が進もうとしている。

以下は、今回の奈良手向山八幡宮について、同宮の上司氏のオーラルを短い区分でまとめたものである。

#### オーラル [手向山八幡宮の歴史]

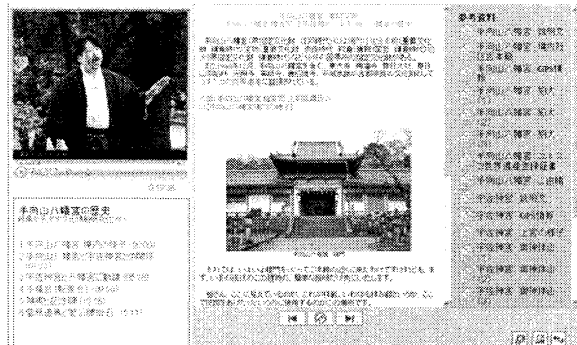
##### (1) 手向山八幡宮境内の様子

手向山八幡宮の概説と楼門、拝殿、本殿などの建物の歴史について、権宮司 上司延禮氏のオーラルを聞きながら、関連PDFや内容としてふれた建物の画像、手向山八幡宮のGPS情報（国土地理院地図閲覧サービスによる）などの参考資料を必要に応じて見ることができる。

\*1 KATO Mayumi \*3 TANI Risa \*4 MIYAKE Akemi \*5 SATO Masaaki

\*6 GOTO Tadahiko : 岐阜女子大学 \*2 OHKI Sachiko : 岐阜女子大学大学院

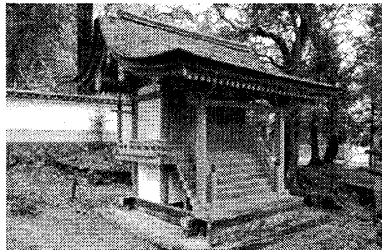
## ◆ オーラル[手向山八幡宮の歴史]画面



※ 左上:映像 左下:映像リスト 中央:テキスト  
右:参考資料リスト



[参考資料]手向山八幡宮 説明文(PDF)

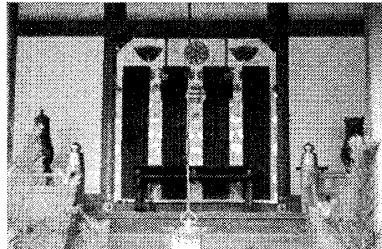


[参考資料]手向山八幡宮 境内社住吉本殿(静止画)

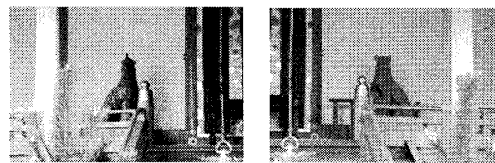
【手向山八幡宮 GPS情報】  
北緯34度41分16秒、東経135度50分41秒  
北緯34.687878度、東経135.84475度  
(国土地理院地図閲覧サービス2万5千分1地形図による数値です。)

以下のアドレスをクリックすると、国土交通省国土地理院の地図(2万5千分1)を見ることが出来ます。  
<http://watchchu.gsi.go.jp/watchchu.aspx?h=344116&l=1355041>

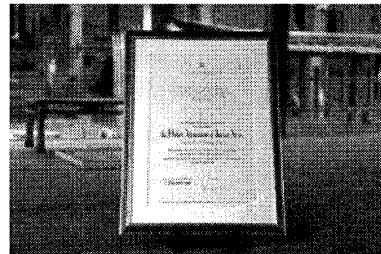
[参考資料]手向山八幡宮 GPS情報(html)



[参考資料]手向山八幡宮 狛犬(1)(静止画)



[参考資料]手向山八幡宮 狛犬(2)(3)(静止画)



[参考資料]手向山八幡宮 ユネスコ世界遺産登録証書(静止画)

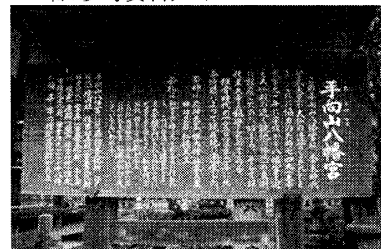
## (2)手向山八幡宮と宇佐神宮

全国八幡宮の総本社である宇佐八幡宮(大分県宇佐市)の由緒,その後の奈良への勧請(手向山八幡宮の由緒)について,権宮司 上司延禮氏のオーラルを聞きながら,関連PDF宇佐神宮のGPS情報(国土地理院地図閲覧サービスによる),宇佐八幡宮の上宮の様子(動画),上宮内の大元神社(御神体山)の遥拝所など,その他の画像を参考資料として必要に応じて見ることができる。

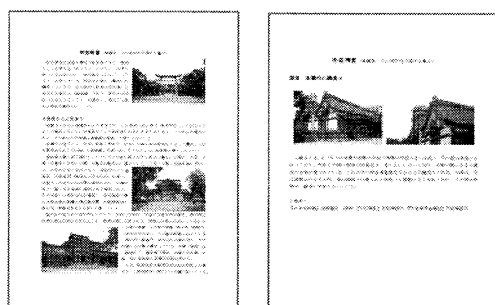
## ◆ オーラル[手向山八幡宮の歴史]画面



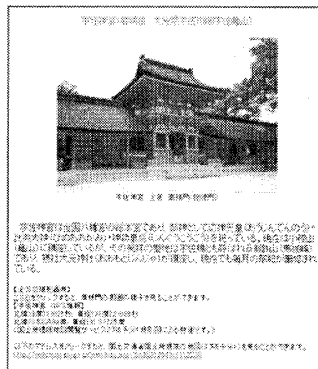
※ 左上:映像 左下:映像リスト 中央:テキスト  
右:参考資料リスト



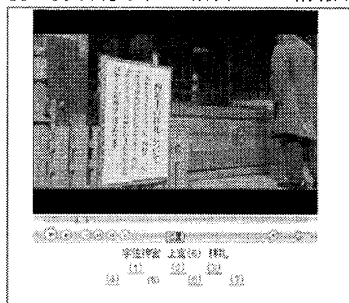
[参考資料]手向山八幡宮 ご由緒(静止画)



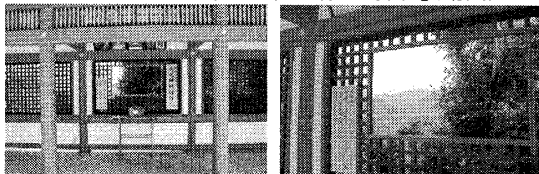
[参考資料]宇佐八幡宮 説明文・八幡造 説明文(PDF)



[参考資料]宇佐八幡宮 GPS情報(html)



[参考資料]宇佐八幡宮 上宮の様子「拝礼」(動画)



[参考資料]宇佐八幡宮 御神体山(1)(2)(静止画)

### (3) 宇佐神宮と八幡ご勧請

奈良時代の東大寺 盧遮那仏の鑄造の折のエピソードや八幡宮の全国への勧請について、権宮司 上司延禮氏のオーラルを聞くことができる。

### (4) 手掻会 (転害会)

奈良時代の宇佐神宮からの勧請を再現した手掻会 (転害会) について、権宮司 上司延禮氏のオーラルを聞くことができる。

### (5) 神輿と記念碑

宇佐が神輿発祥の地とされている由来と奈良時代の宇佐神宮からの勧請の関係について、また盧遮那仏建立1250年の記念にあたっての石碑の建立に関連したPDFや内容としてふれた記念碑の画像を参考資料として必要に応じて見ることができる。

### (6) 菅原道真と菅公腰掛石

手向山八幡宮には、百人一首で有名な菅原道真公の和歌「このたびは 幣もとりあえず 手向山 もみぢの錦 神のまにまに」を腰かけて詠んだとされる石があり、当時の様子などについて、権宮司 上司延禮氏のオーラルを聞きながら、関連PDFや内容としてふれた句碑や腰掛石の画像を参考資料として必要に応じて見ることができる。

## 3. まとめ

これまでのデジタル・アーカイブにおける、素材の収集は、一般的に、映像(静止画、動画)、文書などであったが、今回、歴史、文化的な背景をもとに、当地の専門家によるオーラル(説明)を、関連資料を用いた総合的なコンテンツとして構成した。

その構成方法は、とくに、これまで独立して保存していた関連資料をオーラル(説明)とあわせて保管し、一つの文脈の上に位置づけた構成とした。

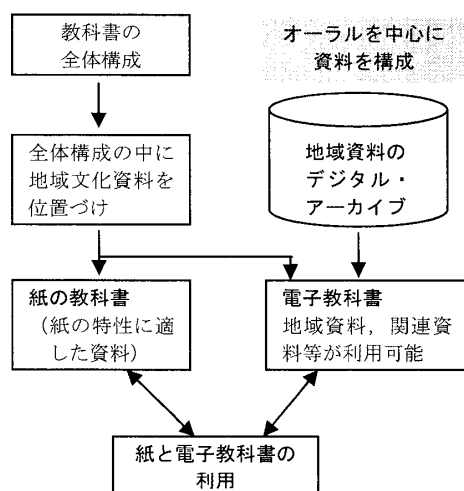
これにより教材として利用するとき、一連の説明と関連資料が利用でき、一つの体系をもった資料として教科書(とくに電子教科書)の中に位置づけることが可能になった。

また、観光用では、多くの情報の中から一つの文脈性のある資料の利用が可能になり、地域の大枠のプレゼンテーションを作成しておき、必要に応じて資料を選択することで全体構成の開発が可能になる。

教科書の全体構成は、電子と紙を用いた教科書のそれぞれの特色を検討し、両教科書をあわせた総合的な構造を計画する。このとき、教材は一つの単体の映像ではなく、一つの文脈を持った構造として、教材として閉じた系を持っているようにする。その一つが、オーラルによる説明であり、それに関連する資料が提示、または、リンクができる構造とする。今回、その一つの閉じた系として、オーラルによる文脈性のある教材のコンテンツを作成した。

これらのコンテンツは、デジタル・アーカイブとして管理し、必要に応じて利用する。紙の教科書は変更が困難であるため、基本的な事項について印刷メディアとして作成する。それに対し、電子教科書は変更が可能であり、とくに、関連資料のリンク先を変えて別の資料提示等も容易であり、利用者に応じた教材の学習プロセスの構成ができる。

このことは、地域によって容易に教材の変更も可能であり、ときには、人によっても変更が可能である。

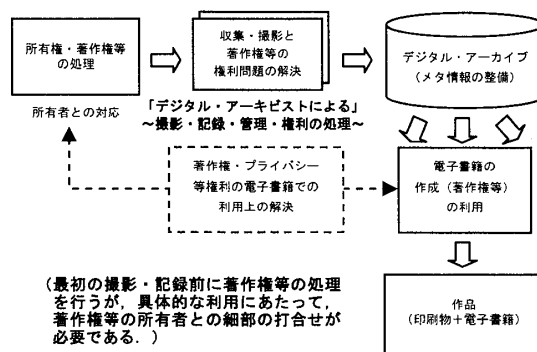


#### 4. 今後の課題

教科書と教材のリンクの方法については、今後の課題であり、多くの試行研究によって共通の方法を決め、標準化が必要である。とくに、教科書が違って、地域でもつ教材のリンクの方法は同じである必要である。

また、映像、資料等を電子書籍で利用するには、その著作権・所有権・プライバシーなど、

法的な面、倫理的な面で書籍としての利用上の解決が必要である。



電子教科書等を制作する会社では、各教科、学年等での利用状況が限定された各資料が、利用できるように許認可を得たデジタル・アーカイブを構成しておく必要がある。

電子書籍、電子教科書等の制作を支えるデジタル・アーカイブの構成は多様な資料があり、各分野で使いやすくするため、その資料分類の構成の検討が必要である。

この研究にあたり、手向山八幡宮の上司氏、宇佐神宮を始め、多くの方々のご協力によって可能になりました。関係者の方々に心から感謝の意を表します。

#### <参考文献・資料>

- ・宇佐神宮, 宇佐神宮庁
- ・宇佐神宮由緒記, 宇佐神宮庁